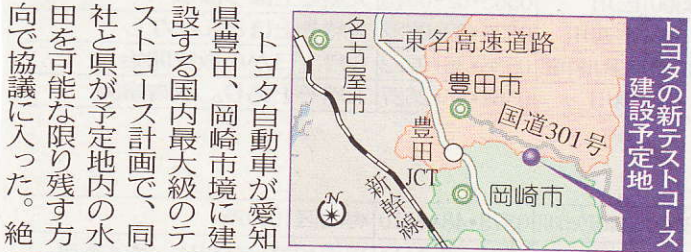




トヨタ自動車のテストコース建設予定地付近。手前は国道301号＝30日午前、愛知県豊田市と岡崎市にまたがる山林で、本社へ「まなづる」から

# トヨタ計画のテストコース 水田保全 改変縮小へ

## 生態系に配慮



トヨタの新テストコース建設予定地。東名高速道路、豊田市、岡崎市、国道301号、豊田JCT、名古屋市、新幹線が示されている。トヨタ自動車は愛知県豊田、岡崎市境に建設する国内最大級のテストコース計画で、同社と県が予定地内の水田を可能な限り残す方向で協議に入った。絶滅危惧種の渡り鳥・サシバが水田を餌場にしており、生息環境の保全が必要と判断した。二〇一〇年十月の生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)の名古屋開催に合わせ、いかに希少種に配慮したコース計画にするかが、トヨタと県の共通課題となっていた。

サシバの生息は、トヨタが昨年一八月に行った猛禽類調査で判明。予定地内の三カ所で、営巣が見つかり、周辺でもサシバとオオタカの営巣が一カ所ずつ確認された。県企業庁の今年の調査でもサシバなどの飛行が見られた。複数の関係者によると、予定地内にある水田六十鈔のうち、保存するのはサシバがカエルなどを捕っている東側区域の水田が中心となる見通し。また、コースの一部をトンネルにしたり、谷には橋をかけたたりして土地の改変を六割から五割未満にする。

トヨタの新テストコース計画。本社と静岡県裾野市、北海道士別市に続く国内4カ所目。予定地は約660鈔。全長6キロのメイン周回路、その内側に4キロの周回路、ほかに研究開発棟などを設け、従業員5000人規模の研究開発エリアとする。敷地の9割が森林で改変面積は6割。県企業庁が用地を取得・造成し、トヨタが買い取る方式で、事業費は1000億円超の見通し。2010年度から造成、13年度から順次稼働の予定。

県野鳥保護連絡協議会は今年一月、計画見直しを求め、県側も環境影響評価の過程で改変面積を減らすよう要請。その後、トヨタは環境団体との協議を続けてきた。